胃がん

【集学的治療の実施状況】

〇消化器内科
　外科、放射線科、病理診断科、緩和ケアチーム、外来化学療法室と連携し、集学的治療を行っています。各種画像検査により深達度、リンパ節転移、遠隔転移を診断して進行度を分類し、生検組織により病理診断を行います。これらの結果から、胃癌治療ガイドラインに基づいて治療法を決定します。
　早期胃がんで内視鏡治療の適応となる症例に対しては、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）を行い、手術治療の適応となるものは外科へ手術依頼します。また、手術適応のない症例や、手術後の追加治療として化学療法を行っています。

〇外科・消化器外科
　消化器内科、麻酔科、病理診断科、放射線科、外来化学療法室、緩和ケアチーム、NST チームと協力し、集学的治療を行います。
　進行度を考慮して手術術式を決定しており、早期胃がんの場合、腹腔鏡下手術も行っています。
　また、外来化学療法室を整備しているため、通院しながら化学療法を行うことが可能です。

〇放射線科
　画像診断と放射線治療を行います。

〇栄養サポートチーム（NST）
　医師、栄養士、看護師、薬剤師等が連携し、がんや治療の副作用による食欲低下、体重減少等に対するサポートを行っています。

〇緩和ケアチーム
　医師、認定看護師、認定薬剤師、管理栄養士、心理士、医療ソーシャルワーカーなどから構成されたチームが中心となり、患者の身体的苦痛や精神的苦痛の緩和に努めます。

《準じているガイドライン》
胃癌治療ガイドライン　(日本胃癌学会)
がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン　(日本緩和医療学会)
苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン　(日本緩和医療学会)
終末期癌患者に対する輸液療法のガイドライン　(日本緩和医療学会)
がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン　(日本緩和医療学会)
がん患者の呼吸症状の緩和に関するガイドライン　(日本緩和医療学会)
がん性痛に対するインターベンショナル治療ガイドライン　(日本ペインクリニック学会)
神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン　(日本ペインクリニック学会)
在宅緩和ケアガイドブック　(日本緩和医療学会)